

## 令和7年度 第2回 信州幼児教育支援センター運営会議

学びの改革支援課

### 1 日 時

令和7年10月23日（木） 10:00～12:00

### 2 開催方法

オンライン開催

### 3 参加者

【長野県立大学】こども学科長 太田 光洋（信州幼児教育支援センター長）

【長野県保育連盟】会長 海野 暁光

【長野県私立幼稚園・認定こども園協会】理事長 西片 紀美子

【長野県野外保育連盟】理事長 内田 幸一

【知事部局】 こども・家庭課 保育係長 羽入田 崇司

自然保育普及推進員 藤田 良子

保育専門推進員 川上 真実

県民の学び支援課 幼児教育支援専門員 久保田 学

主事 太田 菜津恵

次世代サポート課 青少年指導主事 大日向 洋介

【長野県教育委員会】教育次長 清水 寛

教育政策課 主事 倉澤 萌

学びの改革支援課 課長 一色 保典

義務教育指導係長 田中 篤

指導主事 小川 浩貴

指導主事 小林 輝紀

幼児教育コーディネーター 橋爪 典子

### 4 内 容

(1) 挨拶：清水教育次長（代読：田中義務教育指導係長）

- ・本日は、第2回信州幼児教育支援センター運営会議を開催したところ、運営委員の皆様には、公私ともにご多用のところ、ご出席いただき感謝。
- ・幼児教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な役割を担っており、幼稚園教育要領や保育所保育指針等に基づき、各園の創意工夫を生かした質の高い教育の実践が求められている。当センターの目的は、園種を越え、「オールながの」の運営体制で、幼児教育の現場を支え、幼児教育の質の向上を図ることにある。
- ・今年度は、県内外の幼児教育に精通した先生方を講師にお招きして実施したキャリアステージ研修、自己課題を明確にして実践園の保育から学び、自園での日常の保育の充実を図るための往還的・探究的な学びの場であるフィールド研修等を実施し、県内すべての園に向けて、保育者の資質及び専門性の向上のための支援を重ね、幼児教育の質の向上に寄与できるよう取り組んできたところ。
- ・また、幼児教育で育まれた資質・能力を、小学校教育を通じて更に伸ばしていくためには、園と小学校の職員が、両者の教育について理解を深めていくことが喫緊の課題であると思料。特に、園小接続の取組を推進していくためには管理職の理解が重要であることから、今年度は義務教育の小学校・中学校の校長研修の中で、センター長の太田先生にご講演をいただく

など、新たな取組を始めた。今後、さらに各地域において円滑な園小接続が推進されることを期待しているところ。

- ・本日は、本年度のセンターの取組の様子をご報告させていただき、皆様から御意見をいただくことで、今後の事業の運営の方向を明らかにしていきたい。忌憚のない御意見をいただきますよう、よろしくお願ひしたい。

## (2) 協議 【進行 太田センター長】

### ①令和7年度信州幼児教育支援センター活動状況について

#### 【小川指導主事】

○遊びを中心とした保育の充実について

- ・フィールド研修保育向上プロジェクト公開保育を通して、県下各地で質の高い幼児教育の実践が展開されるようになることを目指してきた。
- ・実践園の先生方は、非常に悩みながら実践を重ねてこられていたので、センターの職員が複数回訪問し、先生方と対話的に保育環境や子どもの内面の捉え等について一緒に考えてきた。
- ・令和7年度フィールド研修実践園  
東信 甘露保育園 南信 高遠保育園 中信 本郷南幼稚園 北信 長野市東部保育園
- ・会場別参加状況及び満足度について。感想からは、非常に満足度の高い研修になったと受け止めている。
- ・参加園の先生方にとっては、実践園の参観を通して学んだことと自己課題を踏まえて自園での実践を重ねることを往還しながら研修を深めることができたのが、高い満足度につながったと認識。
- ・日常の保育につながらないと意味がないため、公開のために特別な保育をしないということを実践園にお願いしてきた。
- ・オンライン開催と参集開催の両方に良さがあるので、オンライン開催と参集開催を組み合わせながら次年度も開催していきたい。

#### 【太田センター長】

- ・今、報告のあったフィールド研修についてご意見あるいはご質問があればどうぞ。お感じになることや、このようにしたら良いのではないかなというアイデアが何かあればお願いしたい。

#### 【海野会長】

- ・先日、私どもがやっている長野県の保育研究大会を上田の短期大学会場で行ったところで、特別分科会があった。そこでフィールド研修の会場園だったところのお話を伺い、だいぶ面白い保育、みんなそれぞれで工夫されていることを実感。フィールド研修をきっかけにして、さらに保育が充実してきていることを感じたところ。
- ・一方で、参加者がやや少なくなってきている。自園でフィールド研修の実践園を受けた時よりも人数がだいぶ減ってきている。参加者の人数の推移と実践園の応募が今どれくらいあるのか。

#### 【小川指導主事】

- ・人数の推移は今資料を持ち合わせていないため、即答できない。ただし、ここ数年で参加者が若干減少傾向にあることは間違いないと感じている。
- ・実践園の募集のところも、正直なところだいぶ苦労している。こちらからお声がけをしても他の研究会があるとか、うちでは難しいという理由等で断られることもある。フィールド研修という名前がつくことで、先生方にとっては少しハードルが上がるようなところがあるのか。
- ・保育向上プロジェクトは実践園が4園決まって実施できた。一方で、園小接続プロジェクト

はぎりぎりまで声をかけたが、実現することができなかった。大事にしたい事業であるだけに、反省点が残る。

**【海野会長】**

- ・会場園の選定については、もう一回我々も考えていかなければならない。事務局だけが苦勞するようなことにはしてはいけない。園小接続については、軸足がそちらに徐々に移りつつあるかと思うので、その充実を図っていかなければいけないかなと感じた。

**【太田センター長】**

- ・フィールド研修のこれまでの実践園の日常の保育を、もう少し緩やかに見る、参加がしやすい形で日常の保育を見るというような形の研修について、事務局の考えは？

**【小川指導主事】**

- ・昨年度、フィールド研修の実践園だった安曇野市の穂高幼稚園の園長先生が、「昨年度のフィールド研修の実践園を受けたのがとても良い機会だった」という受け止めをしてくださっている。そして、先生方の中にみんなで保育について語り合う雰囲気や文化ができてきているので、これを一年で終わらせてしまうのはもったいないという考えから、今年度も園の保育を自主公開し、地域の園や小学校に呼び掛けて参加を募っている。実践園の方から外へ発信していくような取り組みができています。小学校からの参加が少ないのが非常に残念だが、そのような形で実践園を受けてくださった園の先生方が、その後、フィールド研修を通して学んだことを次に繋げていく取り組みをされていることが本当に貴重だと感じている。
- ・過去の実践園については、年度当初に一覧を作成して周知しているが、他の園の様子を見に行きたいというような先生方の声が拾えれば、過去の実践園の取組をその一年間だけでなく、もっと広げていきたいと考えている。

**【太田センター長】**

- ・フィールド研修の形をもう少し緩やかにしたというか、保育をもう少し気持ちを楽に見に行けるような機会があってもいいのではないかな。

**【内田理事長】**

- ・実践園を絞り込むのが難しいという話が事務局からあったが、少しハードルが高くなってきているのではないかな。自分たちの中でいろいろ保育を検討していくということでは非常に良い機会かと思うが、実際に保育を公開しようとするとならばやはりハードルが高いというのが、応募してくれる所が少なくなっていることの背景にあるのではないかなと思う。
- ・やまほいくでは、現場研修を行っていて、ほとんど特化型の園が毎年公開保育をしている形になる。参加者は増加傾向。太田先生が仰ったように、緩やかな形の公開保育みたいなもので、他の現場を見たいという要求はかなりあるのではないかな。

**【太田センター長】**

- ・フィールド研修の実践園は確かにすごく学びも多くて、先生たちの意欲もある園が手を挙げてくれている感じなので、それはそれでこう大事にしていきたいが、保育を見る機会はなるべく多くつくれたら、その方が良い。

**【西片理事長】**

- ・フィールド研修が浸透しているようだが、「実際にやってみたらいいよ」と声をかけても、やっぱりハードルが高いというのが他の先生方と同じように感じる。
- ・自園の事で言うと、本郷南幼稚園の公開保育に参加した5年目の職員が園に帰ってきて、真っ先に言ったのが「往還する研修を園内でしましょう」ということだった。
- ・それを聞いて、「もしかしたら近くの幼稚園や保育園と一緒に園内研修をして、三園くらいとかで合同の研修ができるといいなあっていうのを感じた。ハードルを低くして、お互いに良さを認め合っていける環境ができてくると良い。

**【太田センター長】**

- ・それぞれの地域で研修が自走型になっていくというのを一つは目指してきているところがあるので、近くの園と日常的に気軽に交流ができるとよい。
- ・フィールド研修の実践園として公開してくれた園が、そういうところで動いてくれるとよい。全部いっぺんにということではないが、できそうなところからやってもらえたらと思う。

## ②園小接続の充実について

### 【小川指導主事】

- ・園小接続研修に関わって、この研修の目的は「園長・校長をはじめとする園・小学校職員を対象に、子どもの発達や学びの連続性を確保するため、各園や学校としてこれから何に取り組んでいく必要があるのかを考え合うことを通して、円滑な園小接続の実現を目指すこととしている。
- ・オンライン開催で、園小接続研修Ⅰの方はセンター長の太田先生に園小接続カリキュラムの開発を軸にご講演いただき、研修を深めた。参加者 189 名だったが、その内訳を見るとここに課題が表れている。しかし、例年より学校関係者の参加が増えているので、学校の先生方に園小接続の重要性を伝えていく、研修への参加を呼び掛けていくというところを今後も粘り強く行っていきたい。
- ・研修満足度は 88%。小学校の先生方に非常に大事なところを感じ取ってもらっている。「子どもが主体性を持って取り組むというのはどういうことなのかというところをもう一度そこに立ち返って、自分の授業について考えている」「保育園の先生方と直接グループワーク等で話をしたことが非常に大きい経験だった」などと振り返っている先生方がいた。逆に、園の先生方からすると小学校の先生と直接話をしてみることで、小学校での授業のつくり方など新しい気付きに繋がっている部分があった様子だった。
- ・文科省の方から架け橋期のカリキュラムを充実について様々発信されている。当センターとしては、カリキュラムの作成は大事にしたいところだが、カリキュラムを作成していくにあたって、園の先生方と小学校の先生方がお互いのことを知り合ったり繋がったりする中で、子ども主体を軸に考えたり、子どもの学びや育ちを繋いでいくために実際に何ができそうかを考えたりすることが非常に大事なポイントだと思っている。
- ・園小接続研修Ⅱは、11 月 20 日に行われる予定。講師は、東海大学の寶來先生。
- ・令和 7 年度の新たな取組としては、義務校長マネジメント研修の中で、管理職の先生方に園小接続の重要性を理解していただく機会を設けた。
- ・来年度に向けては、オンライン研修を軸にして園小接続研修を実施していく。また、義務校長研修の中で、来年度も園小接続の話題を総合教育センターの研修として位置づけ、小学校、中学校の校長先生方の接続についての理解を促していく。
- ・幼年教育教育課程研究協議会は小林指導主事が担当していて、今年度新たな取組として、園の先生と小学校の先生と一緒に小学校の生活科の授業を考えてみる研修を実施した。小学校の先生方が園の先生方の環境作りの視点から、生活科の授業の材との出会いの場を非常に工夫して作ったり、活動場所の環境の構成について学んだりしている姿が見られた。

### 【太田センター長】

- ・園小接続については、継続的にやっていることと新たに組み組んでることがある。授業づくりは学校の先生と園の先生と一緒に考えることで、環境をどのように作っていくかとか、環境についてどのように考えているのかとか、一緒に考えるよさがある。材との出会いみたいなところでは、おそらく園の方は結構多様な工夫をしていると思うが、どのようなものを活用してるかとか、子どもの見方みたいなものも共有できているのではないかと思う。

#### 【西方理事長】

- ・園小接続について、みんなで取り組んでいこうということで、研修会を多く入れているが、なかなか難しい。「連携」で終わってしまうところが難しい。やはり大事なものは「接続」なので、教育要領をしっかりとお互いに読み込んでいって理解していくところが一番大事だと思う。連携を進めていくと本当にそれだけで終わってしまって、「一緒にやったからいいよね」というような考えになってしまうので、全部の園がそれに参加することは不可能だが、きちんと要領を読んでお互いに理解するところがまず一歩かこの頃考えている。
- ・校長研修を入れてくれたのは非常に嬉しい。私は現場人間なので、現場へよく出かけていって、幼稚園から小学校にも出かけていくが、考え方がだいぶ違っているなど感じることもあったので、子どもの育ちや学びをつないでいくことが本当に大事なんだということをお互いに理解できればと思う。

#### 【太田センター長】

- ・校長先生たちにどうやったら分かってもらえるかということを少し考えながら話をした。

#### 【内田理事長】

- ・逆に太田先生に、校長研修で実際に講演されてどんな印象を持たれたのかを伺いたい。もう少し伺えればと思うが。

#### 【太田センター長】

- ・先生たちの感想はあとで資料に出てくると思うが、やはり学校はゼロスタートみたいな考え方もたれてるのかなというのと、幼児教育ということ自体にあまり関心や知識がないように感じる。幼児期から高校までずっと一貫して資質能力の育成でしっかり繋がっていくことが大切。実際の保育園での子どもの姿みたいなものと、小学校に入ってからどういうところで役割とか人間関係とかでギャップがあるのかなど、そういった話を少し知った上で、具体的な接続のところという話はしたが、皆さん熱心に聞いてくださって良い機会だったなど感じたところ。

#### 【小川指導主事】

- ・全部で450名の校長先生方が参加。参加された校長先生方の感想からは、太田先生にご講演の中でお話いただいた接続の大切さ、連携と接続は違うという部分を感じていただけた校長先生が多かったように感じた。特に小学校一年生の姿を手がかかるとか、大変だと捉えるのではなく、良さとして捉えていくところを小学校ではもっとやっていかないといけないという思いを強く持たれた校長先生もいらした。子どもは有能な学び手であるということから、自身の子ども観を私たちが考え直していくきっかけになると思った。
- ・小1プロブレム等、小学校に入った時に新しい生活に適応しにくい子どもたちをどう支援していくかというところに課題意識のある校長先生が多い。適応できないのは、その子の問題ではなく小学校の環境がその子がその子らしさを発揮できるものになっていないのではないかとこのところに立ち返って考えることの大切さを感じてもらえたのではないかと。
- ・中学校の校長先生からは、小中の接続についても少し知りたかったという声を寄せていただいた。園から小学校、小学校から中学校、中学校から高校と各学校段階でのそれぞれの学びを繋いでいく必要性について考えていただくことができた研修だったと感じている。

#### 【太田センター長】

- ・義務校長の研修というオーダーで高校の校長まで視野に入ると言われて、タイトルが幼保小中高接続になっているが、園小接続のところを中心に話をした。小中のことは私はよくわからないのが、感想にもあったようにその接続は接続でまたきっと課題になっているのだろうと思う。

#### 【海野会長】

- ・先日、東京で未来の学校、未来の先生フォーラムがあって行ってきたが、そこで文科省の課

長さんから新しい学習指導要領の論点整理が出たので、それについての話を聞く機会があった。知識及び技能、思考力・判断力・表現力と学び向かう力の三本柱が二本柱になりそうという様子の話を伺った。学びに向かう力、人間性等は、もっと普遍的なもので、ベースだと。こういうことを一緒にみんなで学んでいくといいなと思った。出来上がったものから学ぶのではなくて、今こういうことを検討していますよというところ。これからは各教科ごとのグループワークに入っていくようで、基本的な流れはもう出来上がったようなので、これをみんなで学んでいくとよいのかなと。知識、技能、縦の関係とか横の関係とかという話だったが、園の段階ではこんな学び・育ちで、小学校はこんな感じ。中学はこんな感じ。高校はこんな感じというのをそれぞれの立場で、これがこう接続していくんだ、つながっていくんだということがわかってくると、もう少し理解が変わってくるんじゃないかなと思う。そんなことができればいいなと思った。

- ・先日、原小学校の校長先生や、今東信にいらっしゃる中原先生とご一緒する機会があって、保育関係もそうだが学校の先生もなかなか県外に出ていけないという話になった。県外で勉強が全然できてないから、もう少し視野を広げるという意味合いでもっと県外で勉強してほしいという話も出た。県外になかなか行けない状況でもあるが、今計画されているものをみんなで検討してみる、学んでみるというところも必要なのではないかな。さらには、学級経営を担任が全部一人で抱え込む文化をなんとかかしていかないと、よくなるのではないかなというのはずっと常々感じているところ。

#### 【太田センター長】

- ・次の学習指導要領に向けての動きが出てきて、学校の授業も少し園小接続っていうところでは柔軟にできるところが増えていく感じがするし、僕も先日、茅野市の玉川小学校で園小接続の研修があって、二年生と年長児と一緒に授業を受ける様子を見てきた。二年生の担任の先生が授業を進めるが、保育園の先生も一緒にその授業に参加して、子ども達はお店屋さんをやってマクドナルドとか回転寿司とかいろんなお店づくりをしていた。園児がお金をどうするかという話になり、お金を牛乳びんの蓋で作ろうという話を小学生がしていたら、園児がペイペイがいいと言って、小学生がペイペイどうするか考えていた。それから、レストランで配膳ロボットがありますよね、猫型の。あのエンジンが作りたいと園児が言って、小学生がどうやって作ったらいいだろうと考える。いくつかのグループでは、人が入って動かすようなものを作っていたし、段ボールを組み合わせて作っているところもあったりして。やっぱり先生も子どもも4月から数回交流を重ねてきて、授業づくりと一緒にやって、すごく楽しそうな授業をしていたのを見たが、そのようにやっていくと、2年生の子どももエンジンとどう関わっていけばよいのかとか、自分たちの発想をいろいろ膨らませて工夫していて、すごくおもしろかった。子ども同士も先生同士も一緒に考えていくというのがとても良い。そういう実践もどこかで紹介していきたいと思っている。

#### 【海野会長】

- ・今思いついたが、太田先生がおっしゃった二年生と年中の交流の中で、ブレイクスルーするのは「子どもの声から」というような気がする。うちも職員会で悩んだり困ったりしたら子どもに聞いてみようとしている。困ったら子どもに相談する。そうすると子どもなりの面白い答えが出てきて、それを基に展開させていくとすごく面白くなってくる。保育者側から伝えていくというスタイルにすっかり慣れてしまっている我々は、子どもの声からブレイクスルーしていくという考え方というのは、もっともっと普及させていかなければいけないと思ったところ。

#### 【小川指導主事】

- ・今の海野先生の話は、次期学習指導要領改定の論点整理のところと直結すると思うが、論点整理が出てくるまでの中教審の議論に注目して見ていく中で、上智大学の奈須先生が幼児教

育の手法やそこで大事にされている考え方を小学校教育に拡張していかなきゃだめだということをも明言されていた。そういった経過もあって、論点整理でも幼児教育を小学校に繋いでいくという視点がだいぶ入ってきているように思うが、やはりこのあたりを子どもの声からブレイクスルーしていくというようなところも含めて、小学校の先生方がなぜこういう改訂の方向になってきているのかということをしかり理解しながら、何を大事にしたいのかということを考えていかなければならないと強く思っている。今聞かせていただいた話もまた、いろいろなところでいろいろな展開が起こってくると面白い。

### ③自立して学び続ける保育者の育成について

#### 【小川指導主事】

- ・キャリアステージ研修の報告。

#### 【海野会長】

- ・指標をもとにされているので難しいが、運用でなんとかならないかと思っているのが、しばらく現場を離れていて戻ってきた方々に対するリカレント教育。今現場はこんな感じだよねという基礎の部分。どのステージが良いかわからないが、そんなことも少しお考えいただきたい。そして、三年で辞める先生が多い中で、今後は長い間ずっと同じ職にいるキャリアステージというよりも、一回離れてまた現場に戻ってくるという方が増えていくのではないか。そういう方々へのフォローアップというか、社会人になってある程度経ってから、あるいは子育てを終えてから、やっぱり保育の世界に行ってみたいというような人たちが学び続ける場ということが必要になってくると思うのですが、そういう体制ができるとうい。新たにつくると負担ばかり増えてくので、今あるものにうまく入れていけないか。

#### 【太田センター長】

- ・確かに少し休んでブランクがあって戻ってくる人達とか保育に興味がある人たちに対する研修というのがあってもよい。宿題にしたい。キャリアステージ研修については以上にして、事務局から説明をお願いしたい。

#### 【小川指導主事】

- ・ドキュメンテーション研修。オンライン開催。講師内田先生。基礎編 136 名参加。満足度 90% 超。内田先生に写真の撮り方について、具体的にご指導をいただいた。ドキュメンテーションを全くやったことのない先生方がかなり少なくなってきた印象。どんな場面を切り取ったらよいのか悩んでしまう先生もいる。写真の撮り方等に質問も出していただきながら、研修を深めることができた。
- ・応用編 144 名参加。今年度のフィールド研修の実践の先生方にドキュメンテーション等を紹介していただきながら、ドキュメンテーションを活用した園内研修について学んだ。
- ・来年度に向けて、県内でドキュメンテーションを活用する取組が広がり充実してきている。掲示されているドキュメンテーションを見ると、何を目的に作るかによって内容が変わってくる。保護者向け、園内研修として先生方が学び合うものとしてなど。ドキュメンテーションを通して、先生方が学び合うことを大事にしようとするなら、子どもの姿をどう捉えるのかについて先生方が言語化して書き込んでいく作業が大事。それが、子ども理解につながっているように感じる。
- ・ミドルリーダー研修、年間七回の研修。関係団体や市町村から推薦いただいた 12 名が参加。フィールド研修の公開保育にも参加。自園でも取組をアウトプットする機会を 1 月に予定。参加者には、ミドルリーダーとしての役割を果たしてほしい。園内研修の構築について力を入れてきたので、是非自園での取組につなげてほしい。
- ・幼児教育アドバイザー連絡協議会、今年度は幼セのアドバイザーの人数を大幅に拡大。非常に多くの訪問要請をいただいた。

#### 【橋爪幼児教育コーディネーター】

- ・今年度 18 名の方にアドバイザーをお受けいただいて、センターの職員 3 人プラスで 21 名体制になった。4 月から幼児教育教育アドバイザー派遣事業をスタートさせ、現在までに 32 の団体、市町村の担当者、教育委員会の事務局、園、小学校などから依頼を受けてきた。延べ 66 回訪問支援をした。そのうち、園小接続に関するものは 10 回。今年度、実際に依頼ができたアドバイザーが限られていたので、次年度はもっと多くのアドバイザーに依頼をしていきたい。また、アドバイザーを受けていただいた皆様には、あまり重く考えずに、園の先生方と一緒に明日の保育を考えていこうねと背中を押してもらったり、一緒に楽しみながら考えていたりするところを大事にしてほしい。

#### 【小川指導主事】

- ・アドバイザー連絡協議会に限らず、アドバイザー同士の横の連携をもっと充実させたいと思っているところ。それぞれのアドバイザーの持ち味があつてよいと思うところだが、各園で受け取ってこられたことをセンターの事務局としてもいろいろと教えていただきたい。また、訪問するときこんなこと大事にしたいというようなところも共有しながら進めていくことで、全県に質の高い幼児教育の実践が広がっていくことに寄与することができたら嬉しい。
- ・総合教育センターでの講座の紹介。6 月 16 日、12 名参加。講師福井大学岸野麻衣先生。
- ・信州まなびチャンネルの紹介。

#### 【太田センター長】

- ・話題がいろいろありましたが、質問ご意見などあればどうぞ。

#### 【内田理事長】

- ・ドキュメンテーション研修の講師を担当したので付け加えるが、やっぱりドキュメンテーションの制作はかなり普及してるんだな、いろんな所で作られてるな、いろいろな試みをしている人たちが増えたんだなという印象を受けた。それで、内部研修に使うのか、保護者への情報提供なのか、大きく分ければ二通りに分かれるが、どちらに関しても結局子どもをどのように見ているのかということのを改めて自分達が活動や日常生活を通じて考えていくというのがやっぱりポイントかだと思う。それを文章化する。ビジュアルとして写真はたくさん使われるが、写真はともかくとして、あの子どもをどんなふうに見ているのかというのを文章化する。その保育者の感性でちゃんと捉えていって、子どもがどんな成長の姿を見せているのかということ。やっぱり観察の目がどっちについても必要になってくるので、その辺のところを研修の内容にもされたらいいのかなというふうに私としては思っている。年齢に関係なく、いろいろ経験の違いのある先生たちで、園の中でいろいろ活動していると思うので、そういったところでの共通理解を生む一つの材料にもなるのかなと思う。ドキュメンテーションを作ってみることで、そういうことができるのではないかな。

#### 【海野会長】

- ・ミドルリーダーの研修は、来年度こども家庭庁でミドルリーダーによる地域の保育の質向上ということで一億円の予算要求している。
- ・アドバイザーは、私も今年から務めさせていただくことになり、とても面白かった。私も勉強になった。小学校の授業でも協働的な学びの中で自分はある程度わかっているんだけど、改めて他の子に教えることによって学びが深まっていくということがあるかと思うが、言語化してみるとか、改めて人に教えるということによってわかったつもりでいたことが実はそうではなかったということがわかるということになる。「これどういうことですか？」と聞かれて、「えっ？そんなことを普段考えてないな」と思って、改めて考えて一生懸命言語化してその場をしのいで逃げてくるみたいな感じだったけれども、本当にいい経験をさせていただいた。こういった学びの場は我々にとっても協働的な学びがあつて面白い。

#### 【西片理事長】

- ・どの研修とも自分の園も育ち、地域も育つのでとても大事なことだと思っている。是非続けていただきたいということと、ドキュメンテーションはやっぱり子ども理解が根底に流れているので、そこをやっぱり先生達が意識していくことで質の向上に繋がるのではないかなと思う。うちの園もドキュメンテーションは、毎年作り方が変わってきている。そんなことも自己研鑽の一つとして捉えていきたい。

#### ④関係各課より

##### 【太田センター長】

- ・ここからは、関係各課の方々と関連することやご意見ご感想などありましたらお願いしたい。

##### 【久保田私学振興専門員（県民の学び支援課）】

- ・園小接続について、先ほど西片先生からも一言あったが、当課では私立幼稚園・認定こども園協会の関係の研修を主に扱っている。今年度は、8月30日に園小接続について信州大学教育学部附属幼稚園の鈴木教頭先生を講師としてお迎えしてご指導いただいたが、非常に残念だったことがあった。それは、研修を小学校義務の先生方にも紹介しながら、そこにもっと参加していただける、そういう体制をきちんと作っていけばよかったということ。来年度の課題だが、できるだけ研修に園小それぞれの先生方が関わっていただけるような部分を厚くしていくことが大事なのかなと、今日のお話の中で感じた。是非ともそんなところをまた考えていきたい。
- ・研修をいろいろ受けたミドルリーダーの先生をどう活用していくか、どう生かしていくかということは非常に大事かなと思う。ミドルリーダーの研修を受けた先生が、研修を受けて終わりではなく、やはり地域の中心となって活躍できるような場を私達自身が考えて提供していくということも大事なのかなと思っているので、是非とも研修の中に関わっていただけるような場を設けていくようなことも考えていきたい。

##### 【太田センター長】

- ・園リーダーの方をどう生かしていくかというのは、育てて活躍する場所を作っていきたいですよね。ありがとうございます。

##### 【大日方指導主事（次世代サポート課）】

- ・幼児教育のことは少し離れてしまうが、今日研修のことを多く扱っていただいていたので、それに関わって。当課の方で、昨年度から信州型フリースクール認証制度というものを始めていて、フリースクールのスタッフ向けの研修を昨年度の秋頃から始めている。主にオンライン中心の研修だが、今日ご紹介いただいた研修もオンラインのものが多くて、園の先生方はまだ園が活動されている時間内での研修参加がこれだけ多いことはすごいことだなと思って聞いた。必要感を持たれているのだろうと思う。フリースクールの方のオンライン研修は、外部委託をしてやっているが、なかなか受講率が上がってこないのが、幼児教育支援センターの取組を参考にさせていただきたい。
- ・園小接続のところに関わるかなと思うが、これもフリースクールの関係で小学校に上がった段階でも学校に行けなかったり、行かないことを選択したりしている方が今とても多くて、小中学校でも不登校児童生徒が7000人を超えるという状況なので、学校側からすると課題意識はすごく大きいのではないかなと思う。保育園がどういう状況なのかは分からないが、保育園も同じ集団でありながら小学校に上がった時にそういう状況が起きるといのはどういうことかという視点で学校側の課題意識を持ってもらうということも必要かなと思った。

##### 【太田センター長】

- ・不登校の話はやっぱり一、二年生の不登校が多いという話があって、そこは園小接続の問題とも絡んでいて、小中学校の先生たちもそこは非常に関心が高いというのは私も感じたところ。

### 【保坂指導主事（特別支援教育課）】

- ・一つは運営委員の先生方にお返しという形でご意見を聞いてみたい。円小接続の話になってしまうがよいかな。特別支援教育課は、特別支援学校を管轄しているところではあるし、特別支援学級や小中学校に主にいらっしゃる特別支援教育コーディネーターという職の方の研修会などを運営している。特別支援教育に関わる研修会の中では、割と園小接続に関しては、生活や学習に困難を抱えるお子さんの幼稚園や保育園等から小学校への引き継ぎというのは、かなり各地域で丁寧に行われているという印象もあるし、実際そういう実感もある。連携という意味でも実質的なものがなされているなどということは感じるし、研修会でもそういったことの大切さについて、改めて触れているところ。

ただ、もう一つの話について、個々のお子さんにはそういう実態がある一方で、これは違和感という言葉を使ってもいいかと思う。奈須先生が話されたこと、小川指導主事からも話がありましたが、私が勤めていた小学校で20年前にも奈須先生が同じことを話されている。これだけずっと言われてきてることがなぜ変わらないのかというのが、自分もこれだという決め手はなかなか決めかねるところもあるが、どうしても何だろうかと悩むところではある。海野先生も話をさせていただいたところではあるが、小学校で園での生活などが活かされていくにはどうあったらいいのかというところは、非常に大きな悩みであり、そこが困難であるがゆえに、なかなか進まない原因の一つなのではないかということ、皆さんの認識と変わらないかなというところ。そこで一つ、先生方に投げかけたいところではあるが、これも一つの視点になるのではないかと感じる。

- ・実は、特に知的障害を対象とする特別支援学校では、園小接続という意識はそれほど強くはないかもしれないが、お子さん達が学校生活を始めていくにあたって特に小学部、小一の段階では、その子の生活を学校に合わせるのではなくて、学校がその子の生活に合わせていくということの対応を基本にする。なぜそれができるかというと、教育課程の中で特に知的障害を対象とする特別支援学校の場合には、教科等を合わせた指導を行えるという仕組みになっていて、大きく四つあるが、その中に例えば遊びの指導であるとか、日常生活の指導といった括りで、学習指導要領に示されているものがある。その遊びの指導や日常生活の指導の中で、それまでのお子さんの生活をより豊かにしていく、学校でより充実させていくという視点で指導・支援が行われているということもあって、多くの義務の小学校で行われている教育課程とは違った指導・支援がなされているなっているところがある。来年度、小学校でどのあたりを突破口にできるのか？来年度もあの生活科あたりが切り口になっているのか、また、教育課程自体を考えていく上で、何かもっと考えていく視点があるのかなというところで、悩みを持ちながら本日の回を聞かせていただいた。

### 【太田センター長】

- ・おそらく保育と特別支援は、すごくよく似ている。ベースが似てるところがきっとあって、保育も特別支援も割となんか子どもの発達ベースになっていて、小学校以上の学校教育になると、教科ベースで学ぶ。そういう先生たちの学びのベースが違っているところから子どもの捉え方とか学校生活の捉え方みたいなところがちょっとずれているのかなと私なんかは思う。
- ・教育課程とか生活科とかいわゆる合科的な授業とか、子どものペースに合わせた授業をモジュール化していった自由度高くしてやるような授業のやり方みたいなのも試行的にでも良いので、どこかでやってみて、そういう成果を共有していけたら面白いと思っています。

### 【西片理事長】

- ・やっぱり子どもを中心に考えるか、それともやっぱり教育課程の中で一斉に全部学校に合わせて行くかというところの差が大きいのではないかな。全部の小学校の先生がそうということではなくて、子どもの意見を取り入れようという先生もかなりいるということを私はここで

お伝えしなければいけないなと思ったが、そういう先生はやっぱり同じ授業内容でも子どもの意見が入っているので、子ども達が少しずつ達成感を持っていると感じる。特別支援学校は、うちの園からも今年一年生に二人入ったが、非常に幼稚園と近い。子どもの趣味、子どもの興味関心からその子が学べる環境をつくっていくところがすごく大きい。ただ、先生1人対子ども35人の学級経営の中で、教育課程の中でどのようにやればいいのかなどというのが課題になってくると思う。

#### 【海野会長】

- ・アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムだったのが、最近は架け橋プログラムになってきてカリキュラムからプログラムに変わったところの考え方をまだ我々は持っていないと思う。西方先生や保坂先生がおっしゃっていた丁寧な接続を一生懸命やっているが、逆に丁寧すぎると負担感もすごくある。「こんなことまだ書かなきゃいけないか」と思いながらやっていて、大人が子どもを分けてしまっている。あなたはこっち。あなたはこっちと。「子どもが選べばいいじゃん」と私は思っているが、「今日は僕はこっちに行きたい。今日は僕はこっちにいるんだ」と、園内の生活では結構子ども自身が自分で決めることができている。それぞれ違う遊びをしている時も、聞いていないようで聞いていて、突然入ってきてサークルタイムで発言する姿もあるので、環境作りというのがもっと必要かなと思う。北海道の安平町の取組では、年長の担任が小学校へ半年間行って教員と一緒に過ごして、後半はまた園へ帰ってきて、学校での生活を今度は園にフィードバックしていくという接続をしていて、それもいいかなと思う。先ほど、ミドルリーダーの活用という話が出たので、ミドルリーダーをここに使ってもいいんじゃないかなと思った次第。

#### 【内田理事長】

- ・遊びだとか日常生活の指導・支援の関係だとかに重点を置かれていると思うが、義務教育の小学校一年生段階のところでもその辺りはやはり丁寧にやっておく必要がある。うちの園ではそれぞれのところにフリースクールを一個ずつつくってあるが、フリースクールの中も結局遊びや日常生活の部分というのが非常にウエイトを占める。フリースクールには、不登校で学校に行けない子たちや、学校を自ら選択しなかった子どもたちが来ているが、遊びと日常生活をベースにしながら、学習活動にどう繋げていくかみたいな、そういうプログラムの開発みたいなことに重点を置いている。かっちりした学校の生活スタイルとは違って、時間割で全部がわかれているわけではないので、かなり緩やか。でも、教育の効果としては、遊びや日常生活のことを盛り込んだとしても、そんなに遜色がないのではないかという実感がある。だから、子どもの興味・関心を大事にするところから学習につなげていく。または、色々な体験活動や生活体験の中から学習へ繋げていくといったようなプログラム開発というのがこれから小学校の、特に低学年で考えられるようになっていけば良いなと思っている。私は学校現場ではないが、そういったものをフリースクールの立場として見える化させていただいているので、その辺の実践の様子がもう少し皆さんにお示しできるような形になれば、見ていただいたらよろしいかと思う。是非またいろいろ教えていただいたり、連携したりしていただければありがたい。
- ・それから、先ほど皆さんが言われていた信州型フリースクール認証制度。そういったものも非常にありがたいと思っている間に認証されている形になってきたので、非常に運営の方にはプラスに働いているというのを付け加えさせていただきたい。

#### 【太田センター長】

- ・まず子ども自身が生活しやすい状況を作るのが大事だと思います。

#### ⑤次年度の計画について

(事務局より説明)

- ・保育者育成指標について

- ・キャリアステージ研修について
- ・ミドルリーダー研修について
- ・フィールド研修について → 募集方法変更
- ・園・小接続カリキュラムの開発改訂について

**【太田センター長】**

- ・今日いろいろお話ししてきた内容を踏まえて、継続していくものと少し改善したり変更したりしていこうというようなこともあるが、もし何かここをこういう風にしたら面白いのではないとかご意見等あれば是非参考にさせていただきたいので、皆さんからお願いしたいと思いますが、いかがか。

**【海野会長】**

- ・フィールド研修の園小接続プロジェクトを是非来年こそは実現したいという話だったが、幸か不幸か、松本市の教育長が曾根原さんで、来年鈴木さんが附属幼稚園の教頭でいるかどうかかわからないが、声をかけやすいのではないか。

**【内田理事長】**

- ・今すぐの話ではないが、池田町の会染保育園が廃園になったので、それを再生する事業をやっている、来年度その園がスタートする。そこで、円小接続ということで、地元の会染小学校と連携授業みたいなものをできるだけ組んでいきましょうという話題が出てきている。実際に一年実践してみないと、どんな報告ができるかわからないが、特に来年度私の方も園小接続を具体的な一つのプログラム作成も含め実践的にやっていこうという方向で動いているので、何か見えてくるものがあつたらまたご報告させていただきたい。

**【西片理事長】**

- ・こんなことできたらということで、フィールド研修実践園・校のアンコールという提案があったが、気軽に見に行くことができる環境が整ってくるといいなと思う。ちょっと自分の首を引き締めるようなところもあるが、本当にそういうふうにみんな子どもたちを支えていくという意識をもって広がっていくとよい。

**【太田センター長】**

なんかそういう気軽に見に行けるんだという雰囲気タイトルをつけたい。  
協議は以上にします。